

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：33704

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770249

研究課題名(和文)古代東山道における地域特性の総合的研究

研究課題名(英文)The comprehensive research of the feature of Tosando region in ancient Japan.

## 研究代表者

北村 安裕 (Kitamura, Yasuhiro)

岐阜聖徳学園大学・教育学部・講師

研究者番号：50646263

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：著書4冊、雑誌論文4本、口頭報告10本の研究成果を得た。東山道地域の交通路・官衙・大土地経営体を具体的に取り上げて特性・機能等について検討し、それらを総合することで東山道における地域社会の様相を復原した。また、東山道に関する9世紀までの文献史料および木簡などの出土文字資料を収集して、データベース(約4500件)を構築した。

研究成果の概要(英文)：I researched features and faculties of roads, public offices and large landed managements on Tosando region in ancient Japan, and described the local society, using the result of research. And I collected historical materials about Tosando region, built databases(contained 4500 data).

研究分野：日本古代史

キーワード：地域 交通 大土地経営 官衙

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 地方官衙に関する研究の進展

日本古代史の分野では、文献史料に乏しいことなどを理由として、地域社会に関する研究が長く停滞してきた。しかし近年になって、発掘調査の進展によって地方の官衙・古代寺院・荘園などに関する情報が飛躍的に増し、出土文字資料(木簡・墨書土器など)も蓄積されつつある。特に官衙については、一郡の中に大規模な官衙遺跡が複数発見される事例などが多くあり、単一の主体・拠点に収斂されない地域社会の多様性が明らかになってきた。そこで、こうした事実を念頭に置きながら、地域社会のあり方を再検討する必要性が生じている。

### (2) 大土地経営研究の進展

7世紀後半～8世紀前半には、「公地公民制」が貫徹して私的土地所有が存在しなかったと長らく考えられてきた。しかし、最近の研究(研究代表者のものを含む)によって、この時期にも貴族・豪族・寺院・官司などの営む大土地経営体(荘園・牧など)が広範囲に存在していたことが明らかとなり、そうした経営体の特性についても検討が深められつつある。大土地経営体は、地域社会においても、地域内の結合の様相を知るためにも、中央と地方の結合のあり方を考える上でも重要な意義を有していたと考えられる。地域社会のあり方を探る上で、大土地経営体について研究する有効性が高まりつつあるといえる。

### (3) 交通研究の成果の活用

奈良～平安時代には、都を中心とした放射線状の交通路(駅路)が整備されており、駅路に沿って地方行政単位である「道」が設定されていた。一方で近年では、駅路とは別に地方間を結ぶ交通路(「伝路」「伝」)の存在や、複数の路線が並存する駅路の区間などが注目され、公的な交通体系が複線的なあり方を示していたことが明らかにされつつある。地域における交通路のあり方は、地域内、そして超地域的な結合の様態をダイレクトに反映していると考えられる。そこで、複線的な交通のあり方に着目しつつ、その具体的様相を復元することによって、地域社会の特性を解明することが可能になると考えられる。

上記(1)～(3)に示した近年の研究成果をうけつつ、交通路を核として地域社会における官衙・大土地経営体などのあり方を総合的に検討することで、古代の地域社会の実相について従来の研究を大きく越える成果を得ることが期待できる。

## 2. 研究の目的

### (1) 概要

奈良～平安時代の地方行政単位である東山道を主要な研究対象として、古代の地域社会の実相を精細に復原することを最大の目的とする。具体的には、地域社会の多様性に留意しつつ、交通路に関する検討を中心に据え、地域社会における官衙・大土地経営体などのあり方を総合的に検討することで、地域社会の実像にせまる。

### (2) 明らかにしようとしたこと

#### 地域情報の全体像

東山道諸国についての文献史料および出土文字資料、交通路・官衙・大土地経営体に関わる遺跡に関する情報を網羅的に収集して、地域情報の全体像を把握する。

#### 交通路の特性・機能

で収集した地域情報を利用して、東山道における交通路の特性や国家施策との関係などを検討し、地域社会において交通路が果たしていた機能を明らかにする。

#### 官衙の特性

で収集した地域情報を利用するとともに、他地域との比較などを通じて、東山道における官衙の特性や交通路との関係などを検討し、地域社会における官衙の役割を明らかにする。

#### 大土地経営体の特性

他地域における大土地経営体のあり方について検討を加えて、地域社会における大土地経営体の存在形態・機能などを明らかにするとともに、で収集した地域情報を利用して、東山道諸国における大土地経営体のあり方について明らかにする。

#### 地域社会の特性

～の検討を総合して、地域社会の特性について明らかにする。その際には、いくつかの事例地を取り上げて、実地に即した具体的な検討を試みる。

#### 東山道諸国の特性

～を総括して、他地域と比較した東山道諸国の特性を明らかにする。なお、東山道諸国は馬の生産や、移民の安置などを通じて、古墳時代より朝鮮半島の影響を強く受けていた。こうした点についても検討を加える。

## 3. 研究の方法

### (1) 地域情報の集積

東山道の駅路および東山道諸国に関する文献史料(国史・法制史料・文学史料・個別文書など)を、国・郡を単位として収集する。また、東山道の官衙・寺院・大土地経営体や交通路に関わる遺跡の情報も、同様に国・郡を単位として集積する。情報はデータベース化して、(2)以下の項目にて使用する。また、データベース自体も公開する。

史料収集は、長野県飯田市歴史研究所・東京大学史料編纂所・長野県立歴史館と連携して進める。

#### (2) 交通路に関する研究

東山道における交通路に関して、推定経路とその変遷、周辺の官衙・大土地経営体との関係、国家政策との関連などについて検討を加え、交通路の歴史的展開や地域社会で果たした役割などを明らかにする。

東山道における交通路と地域社会の関係については、古代交通や東山道地域の研究者を中心としたシンポジウムを開催し、知見を深める。

#### (3) 官衙に関する研究

東山道における官衙について、比定地や機能、変遷、交通路との関係などについて検討を加え、必要に応じて官衙を経営した地方豪族のあり方についても考察する。そして、官衙が地域社会で果たした役割を明らかにする。

#### (4) 土地経営・大土地経営体に関する研究

東山道および他地域における土地経営や大土地経営体の様相について、淵源や歴史的展開、国家的政策との関係などをふまえて、具体的かつ総合的に明らかにする。

#### (5) 東山道における地域社会の総合的解明

(1)～(4)を総合して、東山道における地域社会の特性について、いくつかの事例地を設定して総合的に解明する。

### 4. 研究成果

#### (1) 地域情報の集積

六国史、『古事記』、『類聚国史』、『日本紀略』、『公卿補任』、『類聚三代格』、『延喜式』、『万葉集』、『日本霊異記』、正倉院文書、東南院文書、『平安遺文』所載文書など、おおむね9世紀代までの文献史料を網羅的に収集するとともに、木簡・金石文を中心とした出土文字資料の収集を進め、約4500件のデータを収集した。

収集にあたっては、東京大学大学院生の垣中健志(2013年度)・林奈緒子(2013～15年度)両氏の協力を仰いだ。また、長野県飯田市歴史研究所における共同研究「古代・中世史料収集」プロジェクトと提携して事業を進め、東京大学史料編纂所・長野県立歴史館とも連携をはかった。

史料収集の成果の一部は、図書にて発表している。また、収集したデータの全体については、若干の整理を加えて、まもなく公開する予定である。

#### (2) 交通路に関する研究

論文3本(雑誌論文 )と報告2本(学会発表 )、その他1本(その他 )の成果を得た。

雑誌論文 と学会発表 では、奈良時代初期(和銅年間)に美濃・信濃間に設けられたキソチ(「伎蘇道」「岐蘇山道」「吉蘇路」と、信濃国内に設けられたスハチ(「須芳山嶺道」)について検討した。まず、スハチの経路に関する諸説を整理した後、信濃国の諏方地方と甲斐国を結ぶ交通路であった可能性を指摘した。さらに、和銅～養老年間に、交通路の改変と地方行政単位の再編をとまなう大規模な地方改革が推進されていたことを指摘し、キソチ・スハチが地域間の結合を再編する役割を担っており、養老5年(721)に信濃国から諏方国が分置される前提となったことを指摘した。

雑誌論文 と学会発表 では、信濃国伊那郡における東山道駅路の経路、官衙と交通路の関係、地域内での結合の様態などについて検討を加えた。伊那郡の東山道駅路については複数の復原案があり、全国的にも注目されている。本研究では、「大道」「道下」「街道筋」「街道端」「大道端」などの地名や、寺院や官衙に関連する遺跡の分布などから、新たな路線復原案を提示した。さらに、この知見を前提としながら、伊那郡内の小地域に勢力を張る豪族たちが、東山道駅路を通じて相互交流を図り、共同で郡務にたずさわっていたという情勢を復原した。

以上は、交通路の具体的経路、機能・役割、国家政策との関係などの面で、従来の説を克服する画期的な成果を含んでいる。なお、雑誌論文 については、次項で説明する。

2013年8月24日(土)に、長野県飯田市にて「日本古代社会における交通と地方社会」と題するシンポジウムを開催した。加藤友康(明治大学)・田島公(東京大学史料編纂所)・福島正樹(長野県立歴史館)・海老沼真治(山梨県立博物館)・磐下徹(大阪市立大学)・中里信之(長野県阿智村教育委員会)・市澤英利(長野県飯田市上郷考古博物館館長)の各氏による講演・発表を経て討論を行い、東山道駅路の役割や変遷、時代ごとの他地域との交流の様相など、幅広い内容について知見が深められた。東山道をテーマにした本格的なシンポジウムは「東山道サミット」以来約20年ぶりのことであり、新たな研究の出発点として重要な位置づけを与えらるるものであった。

#### (3) 官衙に関する研究

論文2本(雑誌論文 )と報告2本(学会報告 )の成果を得た。

雑誌論文 は、前項にて説明した。

雑誌論文 は、雑誌論文 の成果をもとにしながら、上野国などの事例を参考にしながら、信濃国伊那郡家跡(恒川官衙遺跡)が東山道駅路に隣接して存在していたことを論証した。これは、古代における官衙と交通路の関係について考える上でも重要なサンプルとなる事例である。

学会報告 では、伊那郡家跡の発掘調査の

成果とも結びつけながら、そこに勤務していた郡司の実態について、全国的な傾向をふまえて明らかにした。学会報告 では、伊那郡家跡に付随する祭祀跡とみられる恒川清水の発掘成果を紹介しながら、奈良時代の祭祀跡が現在まで信仰の舞台として存続していたことを明らかにした。いずれも、古代の郡司や郡家について考える上で有力な材料を提供する内容であった。

#### (4) 土地経営・大土地経営に関する研究

著書 1 冊(図書)、論文 2 本(雑誌論文、図書 所収論文)、報告 2 本(学会報告)、その他 2 本(その他)の成果を得た。

図書・雑誌論文 では、古代の土地経営・大土地経営体のあり方を具体的な事例地に即して復原するとともに、大土地経営と国家的土地制度の時期ごとの特性と歴史的展開を確認しながら、両者の関係性の推移を動的に観測した。そして、地域社会における大土地経営体の機能・役割とその変遷について跡づけるとともに、日本における土地所有観念の成立について見通しを示した。特に図書は、古代史の通説に再考をせまる論点を多く提示したばかりでなく、日本における土地所有の歴史にも新たな視点を導入する内容を有している。

図書 所収論文では、班田収授制のもとで口分田を用意し維持していく際に必要となる開発が地方豪族によって推進されていった様相を明らかにした。班田収授制の内実や、この制度をめぐる中央と地方の関係について具体的に明らかにした点で画期性を有する論考である。

学会報告 では、戦後過小評価されがちであった「大化の改新」の達成点について冷静に評価しようという近年の研究動向を受け、孝徳朝における土地制度について検討した。そして、後の班田収授制とは質的に異なるものの、中国の影響を受けた先進的な土地政策がとられていたことを明らかにした。

(5) 東山道における地域社会の総合的解明  
論文 3 本(雑誌論文、図書 所収論文)と報告 4 本(学会発表)の成果を得た。

信濃国および同国伊那郡を事例地として地域社会の動向を検討した雑誌論文、学会発表 については、前項までで説明した。

図書 所収論文と学会発表 は、美濃国席田郡を事例地として、和銅～養老期の地方政策や交通政策を推進した美濃守笠麻呂の影響下で、朝鮮半島からの移民を中心として郡が成立したことを明らかにした。特殊な任務を負って建郡されたであろう席田郡についてはいまだに謎が多いが、その解明の突破口となり得る視点を導入した。学会発表 は、古墳時代以来の朝鮮半島と美濃のつながりについて考察したもので、席田郡の建郡につ

いても検討を加えた。

#### (6) 総括

(1)～(5)の成果は、いずれも従来の研究では到達しえなかった結論を導いており、本研究における古代の地域社会へのアプローチの有効性が確認できた。研究期間の都合もあり、少数の事例地にとどまってしまった憾みもあるが、今後もより多くの事例地を設定して検討を深めていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

北村安裕「伊那郡における交通路と地域結合」『飯田市歴史研究所年報』12号、2014年、62～74頁、査読有

北村安裕「東山道と伊那郡家」『伊那』1032号、2014年、28～32頁、査読無

北村安裕「日本古代における寺領の歴史的展開 筑前国観世音寺領杷伎野を例として」『歴史学研究』909号、2013年、1～17頁、査読有

北村安裕「和銅～養老期の地方政策の特質 キソヂ・スハヂと諏方国を中心に」『飯田市歴史研究所年報』11号、2013年、75～88頁、査読有

url:<http://ci.nii.ac.jp/lognavi?name=nels&lang=jp&type=pdf&id=ART0010138829>

[学会発表](計10件)

北村安裕「美濃守笠麻呂と席田郡」、席田郡建郡 1300 年記念船来山古墳群報告会、2015年12月13日、本巢市すこやかセンター地域交流室(岐阜県本巢市)

北村安裕「席田郡建郡と古代の豪族」、本巢市歴史文化探訪セミナー、2015年5月9日、富有柿の里柿センター(岐阜県本巢市)

北村安裕「7世紀後半の土地政策」、日本史研究会古代史部会、2014年11月22日、機関誌会館(京都府京都市)

北村安裕「美濃と新羅の古代史」、飯田市歴史研究所古代史講座、2014年11月12日、飯田市歴史研究所(長野県飯田市)

北村安裕「孝徳朝の土地政策」、第2回難波宮研究会、2014年10月4日、大阪市立大学梅田サテライト(大阪府大阪市)

北村安裕「古代の郡司と社会」、飯田市歴史研究所地域史講座、2014年3月15日、座

光寺公民館（長野県飯田市）

なし

北村安裕「恒川清水と古代のまつり」、座光寺ふるさと再発見講座、2014年1月19日、恒川清水生活改善センター（長野県飯田市）

北村安裕「伊那郡における交通路と地域結合」、第11回飯田市地域史研究集会、2013年8月24日、飯田信用金庫本店（長野県飯田市）

北村安裕「諏方国の分置をめぐって 交通からのアプローチ」、飯田市歴史研究所定例研究会、2013年5月25日、飯田市歴史研究所（長野県飯田市）

〔図書〕(計4件)

本巢市教育委員会編『船来山古墳群2』、本巢市教育委員会発行、2015年、総頁数30(20~21)

北村安裕『日本古代の大土地経営と社会』、同成社、2015年、総頁数253

佐藤信監修・朝野群載研究会編『朝野群載巻二十二 校訂と注釈』、吉川弘文館、2015、総頁数430(16~17、28~29、33、39、56~63、135~139、166~173、227~233、407~411)

天野努・田中広明編『古代の開発と地域の力』、高志書院、2014、総頁数300(185~201)

〔その他〕

北村安裕・小林彩「結ばれる都と地方 古代の東山道」(展示概要)、『飯田市歴史研究所年報』12号、2014年、91~94頁

北村安裕「浮浪・逃亡について」、『歴史と地理』675 日本史の研究 245、山川出版社、2014年、21~24頁

北村安裕「書評 三谷弘幸著『律令国家と土地支配』」、『歴史評論』769号、2014年、95~99頁

北村安裕「書評 服部一隆著『班田収授法の復原的研究』」、『歴史学研究』907号、2013年、38~40頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

北村安裕 (KITAMURA, Yasuhiro)

岐阜聖徳学園大学・教育学部・専任講師  
研究者番号：50646263

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者